

三重県



2020

三重県産花木で
東京オリンピック・パラリンピックの
舞台に彩りを！

の

花 木

目次

- 1 発刊にあたって
- 2 三重県内での活用事例
- サツキ・ツツジ類の代表種紹介**
- 6 サツキ（三重サツキ）
- 7 ヒラドツツジ（大紫）
- 8 クルメツツジ（緋竜の舞）
- 9 伊勢シリーズ（伊勢路錦）
- 10 サツキ
- 11 ヒラドツツジ
- 12 クルメツツジ
- 14 その他の品種
- 16 ジャノヒゲ類
- 18 管理のポイント
- 19 生産状況
- 20 三重のその他の緑化木
- 21 県内の花き花木関係団体



発刊にあたって



三重県知事
鈴木 英敬

三重県は、日本一の生産量を誇るサツキ・ツツジをはじめ、高品質な花木を安定的に供給できる全国屈指の花木産地です。

三重の花木は様々な場所で愛用されており、2016年5月に開催された伊勢志摩サミットの際には、たくさんの県民の皆様に参加いただき、「花いっぱい作戦」として県内各地の公園や花壇、サミット関係の諸施設への飾花が行われました。

三重県産の花き花木を使った「おもてなし」が国内外から訪れた多くの人々を魅了し、高く評価されたところです。

私たち三重県の花木関係者は、こうした伊勢志摩サミットのレガシーを生かしながら、間近に迫った2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機に、世界中からお越しになる皆様を県産の花木でお迎えしたいと思っています。

本冊子「三重県の花木」は、数十種類にもおよぶサツキ・ツツジ類やタマリユウなどのジャノヒゲ類に関する基本情報や活用事例を、写真を交えて紹介しており、わかりやすく実用的な内容としています。

緑化に関わる事業者の皆様をはじめ、より多くの方に、本冊子を手にとっていただき、見る人の心に潤いを提供する花と緑のおもてなしとして、沿道や建物の壁面等の緑化に三重県特産の花木をご活用いただきますようお願いします。

三重県内での 活用事例



伊勢路紅(伊勢シリーズ)
三重県庁(津市)



三重サツキ
鈴鹿市役所(鈴鹿市)



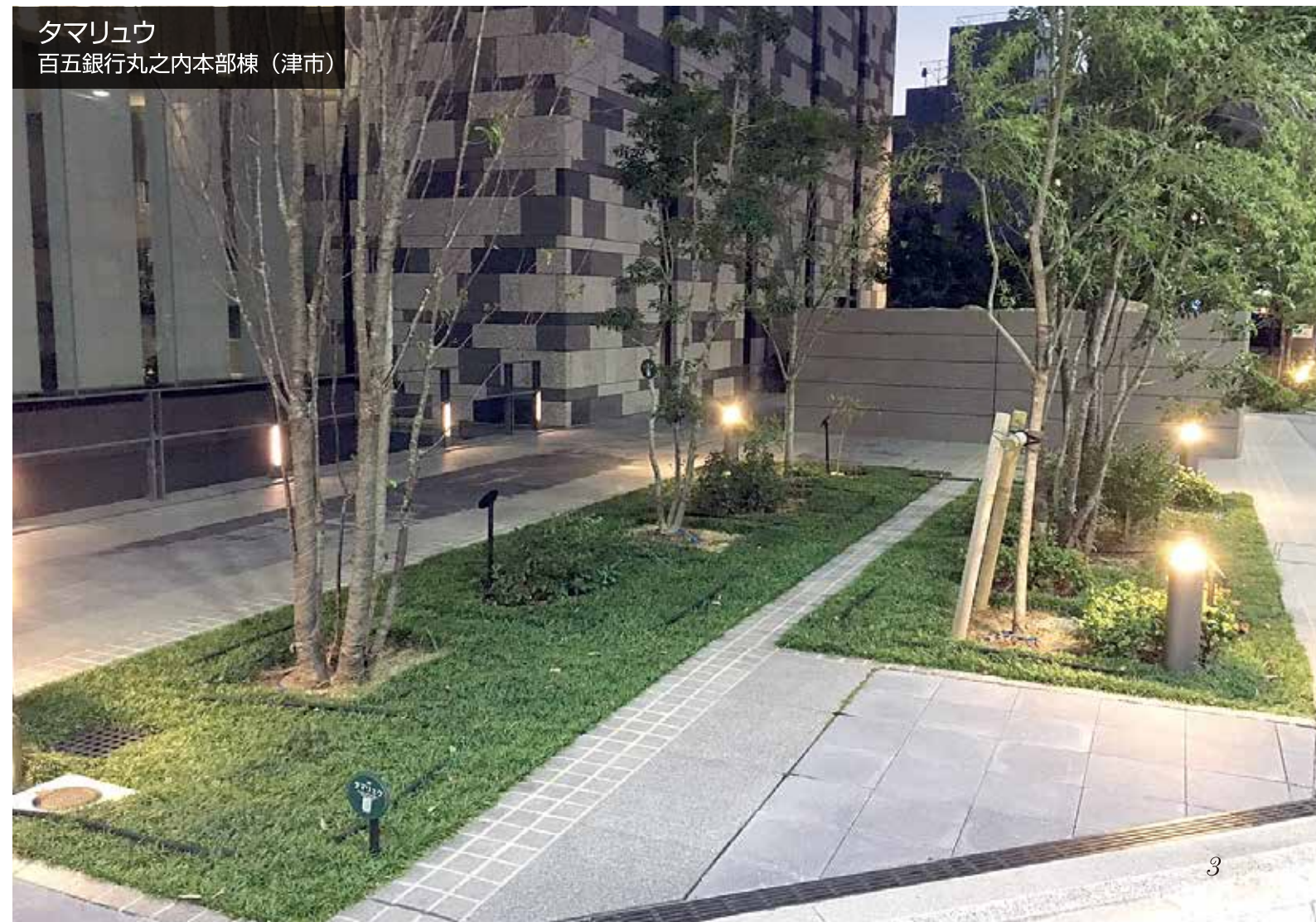
タマリユウ





三重サツキ
三重県総合文化センター(津市)

タマリユウ
百五銀行丸之内本部棟 (津市)



三重県内での
活用事例





ヒラドツツジ
九華公園（桑名市）



ヒラドツツジ
東青山四季のさと（津市）



サツキ (三重サツキ)



学名

Rhododendron indicum
ツツジ科ツツジ属
常緑低木

花 色：ピンク

開花期：5月下旬

樹 高：1m程度

樹 姿：横に広がる

紅 葉：あり

植栽適地：南北海道～沖縄

用 途

- ・沿道の植栽
- ・公園周囲の植栽
- ・建物周囲の植栽
- ・庭園の植栽
- ・生垣、盆栽

特徴

- ・「三重サツキ」は、前回の東京オリンピック（1964年）を契機とした公共緑化の需要にマッチし、爆発的に生産が拡大した三重県を代表する樹種です。
- ・それまで生産されていたサツキの中から、優良な系統を選抜し、昭和45年に「三重サツキ」と名付けられました。
- ・主な特徴
 1. 樹勢が強く、刈り込みによく耐える
 2. 小型の照り葉で、冬季には美しく紅葉する
 3. 花は5～7cmの中輪で、花弁は厚く、桃紅色で美しい
 4. 枝葉は密生し、根張りがよい
- ・低木類の中で最も多く利用されている樹種です。（花木等生産状況調査 /2016年農林水産省）
- ・大変育てやすく、あらゆる場面の緑化に適しています。

活用事例



三重県総合文化センター

ヒラドツツジ (大紫)

オオムラサキ



学名

Rhododendron × pulchrum
“Oomurasaki”
ツツジ科ツツジ属 常緑低木

花 色：紫

開花期：4月下旬～5月中旬

樹 高：2m程度

樹 姿：高さと同葉張りは同じ程度

紅 葉：なし

植栽適地：北関東～沖縄

用 途

- ・沿道の植栽
- ・公園周囲の植栽
- ・建物周囲の植栽
- ・庭園の植栽
- ・生垣

特徴

- ・ヒラドツツジの「大紫」は、関東方面では「オオムラサキツツジ」という名称で流通しています。
- ・大紫から選抜、育成され、株がまとまる「コムラサキ」は三重県の生産者が育成した品種です。
- ・当品種は、耐潮性があるため、海岸近くにも植栽できます。
- ・樹勢が強く、刈り込みに耐えます。
- ・花は大輪であり、直径が10cmを超えるものもあります。花全体は濃紫色となります。

活用事例



三重県民の森

クルメツツジ(緋竜の舞)

ひりゅうのまい



学名

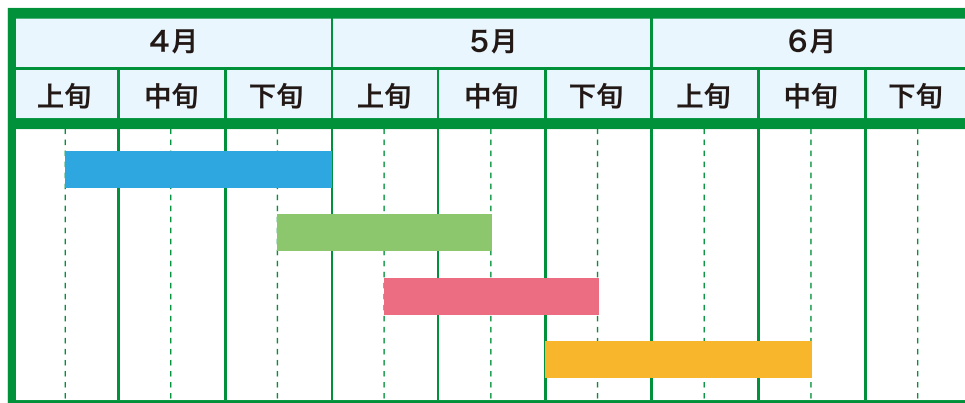
Rhododendron obtusum
"Hiryuunomai"
ツツジ科ツツジ属 常緑低木

- 花 色：赤
 開花期：4月下旬
 樹 高：1m程度
 樹 姿：栽培年数が短い株は縦長になる
 紅 葉：あり
 植栽適地：北関東～沖縄
 用 途
 ・公園周囲の植栽
 ・建物周囲の植栽
 ・庭園の植栽
 ・盆栽

特徴

- ・明治時代以降に育成された品種で、「緋の司」から選抜した品種です。
- ・クルメツツジ系の品種は、アメリカで古くから鉢物用の植木として流通し、温暖な地域では庭園にも植栽されています。
- ・全体を覆って一斉に咲く花つきの良さ、明るい色彩、常緑性でコンパクトな樹体の特徴です。
- ・花は、5cmほどの中輪で花全体が照緋紅色となります。
- ・クルメツツジの中では寒害を受けやすいので関東より北での植栽では注意が必要な品種です。
- ・クルメツツジの中では過湿を嫌いますので注意が必要です。

サツキ、ツツジ類の開花時期(三重県)



■
クルメツツジ

■
ヒラドツツジ

■
伊勢シリーズ

■
サツキ



新サツキ「伊勢シリーズ」に期待の新品種「伊勢路錦」が誕生

新サツキ「伊勢シリーズ」は、三重県が育成したツツジとサツキの交配品種です。この「伊勢シリーズ」に新品種「伊勢路錦」がラインナップされました。

4月に咲くクルメツツジ、4月下旬から5月中旬に咲くヒラドツツジ、5月下旬から6月中旬に咲くサツキ。そして、この「伊勢シリーズ」は5月上旬から下旬に開花し、美しい花のじゅうたんを周辺を明るく演出します。

このシリーズを植栽に加えることで、4月から6月までの開花を連続して楽しむことが可能になり、園芸、造園に新たな可能性を生み出します。

特徴

「伊勢路錦」の特徴は、花色と花型にあります。花色は①白色地に赤色の斑点状・縞状の斑入り、②白色、③赤色の咲き分けです。花型は、雌ずい、雄ずいが花弁化する「八重咲き」で、着花数が多い品種です。

栽培は容易で、病害虫に強く、ホームユースから公共事業まで幅広い場面で利用可能です。葉色は、夏期は緑色で、冬期の紅葉度は低く、樹姿としてはやや縦に伸びます。

規格は、露地もの(葉張り=30cm・40cm)と15cmポット仕立てが流通しています。



伊勢路紫 いせじむらさき

花 色：ピンク系で紫色が強い
花 型：中小型でやや丸みを帯びる
着花数：多い
葉 色：夏期は濃い緑色、冬期の紅葉度は低い
樹 姿：やや縦に伸びる



伊勢路紅 いせじべに

花 色：ピンク系で赤紫色が強い
花 型：中小型でやや花弁の先が尖る
着花数：多い
葉 色：夏期は濃い緑色、冬期の紅葉度は初冬から高くなる
樹 姿：横に広がる



伊勢小町 いせこまち

花 色：ピンク系で鮮赤紫色
花 型：小型でやや花弁の先が尖る
着花数：きわめて多い
葉 色：夏期は濃い緑色、冬期の紅葉度は初冬低く後に高くなる
樹 姿：玉状になる

その他に三重県で生産量が多い品種を紹介します。いずれも強健で花つきがよいことから、植栽によく使われ、組み合わせを工夫することで4月上旬～6月中旬にかけて花を楽しむことができます。

サツキ

● 開花期 ●
5月下旬～6月中旬



長崎熊野 ながさきくまの (赤)



紅盃 べにさかずき (赤・八重)



博多白 はかたしろ (白)



ロージー (ピンク・八重)



鹿沼の輝 かぬまのかがやき (白・赤絞り)



寿姫 ことぶきひめ (白・朱絞り)

ヒラドツツジ

● 開花期 ●
4月下旬～5月中旬



平戸 ひらど(白)



平戸 ひらど(ピンク)



平戸 ひらど(赤)



琉球ツツジ りゅうきゅうつつじ(白)



平戸 ひらど(紫・八重)



紅石南花 べにしやくなげ(ピンク)

クルマツツジ

● 開花期 ●
4月上旬～4月下旬



花遊 はなあそび (赤桃)



宮城野 みやぎの (ピンク)



白妙 しろたえ (白)



今猩々 いましようじょう (赤)



日の出 ひので (赤)



常夏 とこなつ (赤・白咲き分け)



小蝶の舞 こちょうのまい (紫)



白雪 しらゆき (白)



暮の雪 くれのゆき (白・八重)



本霧島 ほんきりしま (赤)



麒麟 きりん (ピンク)



キンコウカ (ピンク)

サツキ



玉サツキ
たまさつき
(赤)



めぐみ
(白赤)



一生の春
いっしょうのはる
(白～紫)



花蓮光
かれんこう
(ピンク・底白)



金盃
きんばい
(朱・底白)



月光
げっこう
(赤・ピンク絞り)



桃香
ももか
(ピンク絞り)



美里
みさと
(赤・ハ重)



涼風
すずかぜ
(紫)



海ほたる
うみほたる
(白・赤絞り)



萌華
もえか
(白・紫絞り)



房総の光
ぼうそうのひかり
(白・赤絞り)



麗子
れいこ
(ピンク・底白)



鈴の誉
すずのはまれ
(赤紫・底白)

コンテナ栽培

三重県ではサツキ・ツツジ類をはじめ他の多くの樹種で、コンテナ（プラスチックポットや不織布ポット、マットトレイ等）での栽培が増えています。

コンテナ栽培は、掘り取り、根巻き作業が不要となることから出荷時の根の傷みが少なく、速やかな出荷や従来移植不適とされた時期でも移植可能となる等の利点があります。



ヒラドツツジ



平戸
ひらど
(ピンク・ハ重)



春化粧
はるげしょう
(ピンク)



越後山つつじ
えちいごやまつじ
(ピンク)



岸つつじ若鷺
きしつつじわかさぎ
(白)



藤万葉
ふじまんよう
(薄紫・ハ重)



琉球絞り
りゅうきゅうしぼり
(白・紫絞り)



花車
はなぐるま
(薄紫)



静寧
せいねい
(白・ハ重)

いづれも三重県で
生産されている
特色あるサツキ・ツツジの
品種です。

クルメツツジ



初音
はつね
(ピンク)



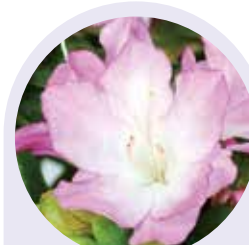
太陽
たいよう
(赤)



老いの目覚め
おいのめざめ
(ピンク)



雅姫
みやびひめ
(紫)



九重
ここのえ
(ピンク)



吾妻鏡
あずまかがみ
(ピンク)



御代の栄
みよのさかえ
(ピンク絞り)



緋の司
ひのつかさ
(赤)



摩耶夫人
まやふじん
(紫)



深山霧島
みやまきりしま
(白・紫絞り)

ジャノヒゲ類 (タマリユウ)



学名

Ophiopogon japonicus
Ker. nanus fort
キジカクシ科ジャノヒゲ属

- 別名：リュウノヒゲ
原産地：日本、中国、朝鮮半島、
東南アジア
草丈：5～20cm
開花期：6～8月
花の色：白、紫
実の色：青
用途
・建物周辺の植栽
・庭園の植栽
・樹木類地際部の植栽

グランドカバーに人気のジャノヒゲ類

特徴

- ・葉は濃緑でツヤがあり、分けつ、ランナーで芽を増やします。強健な性質を活かし、和風の庭から公共のビル、建物の植栽に幅広く利用されています。
- ・6～8月に、白、紫の花を下向きに咲かせ、その後、青い実をつけます。
- ・芝生のように大面積の緑化の他に、花壇の縁取り、緑化木の根締め、カラーリーフプランツとしての寄せ植え材料など、幅広い使い方ができる多年草です。

マット植物とは

- ・ジャノヒゲ類は「マット植物」として流通している商品があります。これは、芝生苗のように植物体の根が連結し、形状がマット状になった植物を指すものです。
- ・植栽予定地に敷きつめるだけで、簡単に全面緑化を完成させることができます。
- ・土壌流亡防止、雑草の発生抑制などのメリットもあり、利用が拡大しています。
- ・25cm × 25cmや30cm × 60cmなど様々な出荷規格で販売されています。



生産圃場

ジャノヒゲ類は、葉の長さ、葉色が多様で利用場面に合った品種選択ができます。



ジャノヒゲ

別名リュウノヒゲと呼ばれる基本種です。葉は濃緑色で長さ10~20cm、幅3~4mmで平行脈が数本あります。葉の長さが30cmを越えるナガバジャノヒゲや葉の幅が6mmを越えるオオバジャノヒゲなど多くの園芸種があります。



タマリユウ(玉竜)

タマリユウは、ジャノヒゲ類の中で最も生産量の多い品種です。ジャノヒゲの矮性種で草丈は5~15cmほどです。ヒメタマリユウと呼ばれるさらに小型の種もあります。環境耐性の強いグランドカバーとして色々な場面で利用されています。



ハクリユウ(白竜)

ハクリユウは、ジャノヒゲの園芸種で、緑の葉に白色斑が入ります。ジャノヒゲに比べ、やや生長は遅い品種です。斑入り品種は、明るい日陰できれいな斑が出ます。



コクリユウ(黒竜)

コクリユウはオオバジャノヒゲの園芸種で葉が黒色となります。暑さ、寒さに強く、日照量の多い環境でより葉色が濃くなります。特徴的な黒色葉は植栽場面を引き締める効果があります。

活用事例



タマリユウを使用した屋内球技場の屋根緑化（駒沢オリンピック公園総合運動場 東京都）

● 管理のポイント ●

【サツキ・ツツジ類】

植え付け 間隔

樹で地面を覆う場合の植栽間隔(参考)

- サツキ(葉張り40cmの規格)40cm×40cm
- ヒラドツツジ(葉張り40cmの規格)40cm×40cm
- クルメツツジ(葉張り30cmの規格)30cm×30cm



植え付け について

梅雨明けから盆までの真夏は、気温が高く乾燥しているため、苗木に負担がかかります。そのため、真夏は植え付けを避けた方が良いでしょう。植え付けの適期は3月中旬から6月と9月ごろです。

真夏に植え付ける場合は、植え付けまでの苗木管理が簡単な、コンテナ植木(14ページ参照)を利用する方が良いでしょう。

植え付け方法

植え付け時は水をたっぷり与えることがポイント

- (1)直径が根鉢の2倍、深さ20~30cmの植え穴を掘る。
- (2)根鉢の土を落とし、根を露出させてから植え穴に入れ、土を入れて棒などで突き込む。
- (3)根が8割ほど埋まった時に水を注ぎ、根の間の隙間をなくすように棒などで突いて土をなじませる。さらに、土をかけ、たっぷりと水を注ぐ*。

※水締め: 植え付け方法の一つ。注がれた水が引くことにより土が締まり、植え付けた苗木がしっかりと固定される。

剪定 について

剪定は、花が終わってから盆までの間に行うことがポイント。

翌年も多くの花を楽しむために、サツキ・ツツジ類の剪定は花芽形成が始まる盆までに「剪定(刈り込み)」を済ませます。

ただし、上記の時期以外に剪定を行っても、その株が枯れることはないため、樹形が乱れてきたら、剪定を行っても構いません。

病害虫 について

病害虫には比較的強いので、細かな病害虫防除は不要です。

春先に発生するツツジグンバイは、葉が白く脱色し、見苦しくなりますので注意が必要です(農薬での防除は、農薬に記載されている適用のとおり散布してください)。

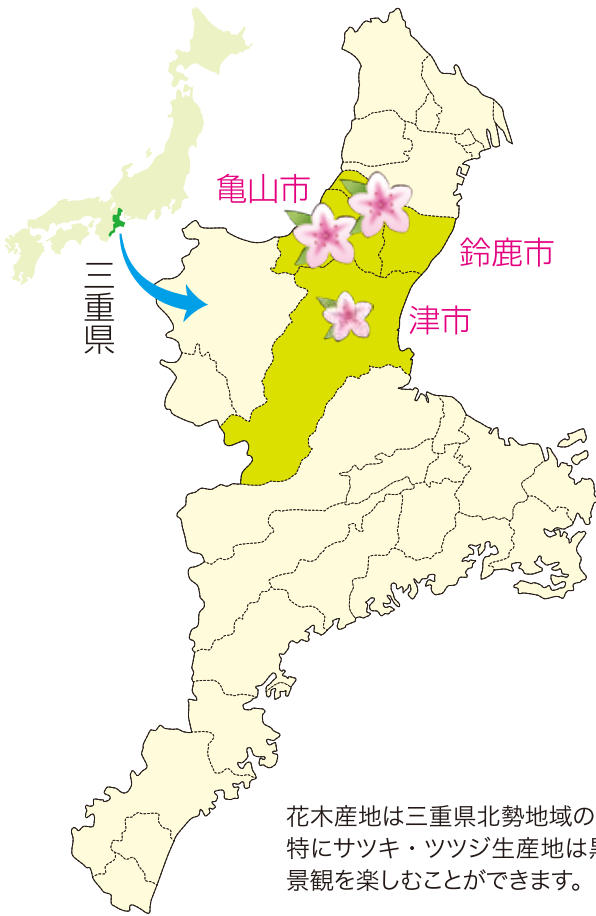
【ジャノヒゲ類】

ジャノヒゲ類は、植え付け時に水をたっぷり与え、植え付け用土と根をしっかりとなじませて活着させることが重要です。

管理については活着後の夏冬季の極端な乾燥に注意をする以外は、病害虫も含め特に問題はありません。

● 生産状況 ●

花木産地

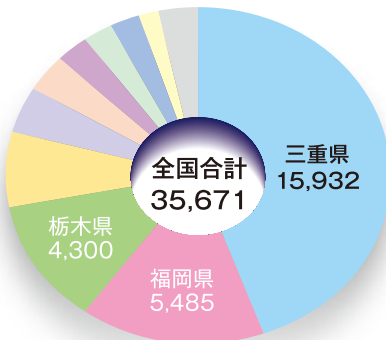


花木産地は三重県北勢地域の鈴鹿市を中心に、津市、亀山市等周辺地域に広がっています。特にサツキ・ツツジ生産地は黒ボク土地帯に広がり、開花期には花の絨毯を敷きつめたような景観を楽しむことができます。

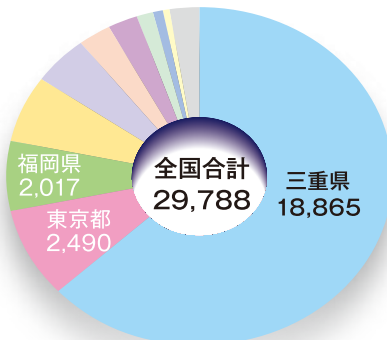
生産面積 平成27年花木等生産状況調査(農林水産省)より

三重県はツツジ・サツキ類、ジャノヒゲ類の生産日本一。

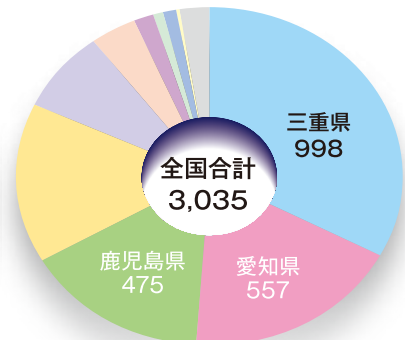
ツツジ類生産面積 (a)



サツキ類生産面積 (a)



ジャノヒゲ類生産面積 (a)



三重のその他の緑化木

三重県は、サツキ・ツツジ類やジャノヒゲ類以外にも都市緑化に適した緑化木を数多く生産しております。



県内の花き花木関係団体

三重県花植木振興会

- 【目的】** 花き及び植木の生産と品質の改善、ならびに流通の合理化を図り、花植木農業の健全なる発展に資する
- 【設立】** 昭和47年5月23日
- 【構成】** 花きおよび植木の生産者等を構成員とする団体、個人
- 【活動】** (1) 会員および会員の構成員である生産者に対する技術の向上
(2) 販路の拡張および宣伝
(3) 会員が必要とする情報の収集および提供 等



三重県花き品評会



三重県植木まつり



植木PRキャラクター
たままぶろう

「三重県の花木」

発行日／平成30年1月

■問い合わせ先 三重県 農林水産部 農産園芸課 園芸特産振興班
TEL:059-224-2808 FAX:059-223-1120

